

デザイン学科特別任用教授 茂登山 清文

1. 研究活動

論文			
イメージ間のリンケージを示すイメージリテラシー・ツール	2015. 9. 1	図学研究 第49巻 3号第147号 日本図学会	林桃子 イメージとイメージのリンケージに着目し、イメージに関するリテラシーを向上させるためのツールを提案、ICT技術を活用し開発した。
研究発表			
ポスト・インターネットアートにおける画像のエッジ処理のノンリニア性	2015. 5. 10	日本図学会 春季大会 北海道大学	阿部拳士郎 ポスト・インターネットと呼ばれる現代におけるデジタル表現について、その画像のエッジ処理に焦点をあて考察をくわえた。
ナラティブビジュアライゼーションの有効性	2015. 7. 4	第五回 社会情報学会中部支部研究会 名古屋大学	覃照瑩、遠藤麻里、遠藤潤一 インフォメーショングラフィクスの分野で、ナラティブビジュアライゼーションという新たな視覚化について、その分類、分析をおこなった。
Interactive Onsite Application of Museums' Art Collections and Image Connectivity	2015. 8. 7	8th International Conference on the Inclusive Museum New Delhi	Takuya Inagaki 美術館のアーカイヴを活用する手法として、それらの展示状態をAR技術を用いて再現、鑑賞するアプリケーションを開発した。
Nagoya University project gallery [clas]: the experimental space for diverse people	2015. 8. 9	8th International Conference on the Inclusive Museum New Delhi	Hitomi Mizutani 名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」は、多様なバックグラウンドをもつ人々のための実験的空間である。その学生スタッフの活動にフォーカスをあて、知識と人々をつなぐ媒介者としての可能性について考察した。
Research and Trial Development of An Application Improving Design Literacy of architecture	2015. 11. 2	International Visual Literacy Association (IVLA2015) de Young Museum, San Francisco	Mari Endo 建築のデザインに関するリテラシーについて考察し、その向上を目的にアプリケーションを試作した。

Two Tools That Create Texts With Visible Prosody	2015. 11. 23	JALT (Learning to Teach, Teaching to Learn) 静岡県コンベンションアーツセンター	Markus Rude, Takakazu Nakane 語学教育において、教員がその音韻を文章に表示させることのできるアプリケーションを開発した。
建築分野におけるデザインリテラシーについての考察	2015. 11. 29	日本図学会 2015年度秋季大会 大阪大学	遠藤麻里、遠藤守、安田孝美 建築分野におけるデザインリテラシーの意義とその構成要素について、人文学な見地から考察を加えた。
アートプロジェクトにおいて扱われる「負」の歴史・記憶の意味	2015. 11. 29	日本アートマネジメント学会第17回全国大会 名古屋芸術大学	水谷仁美 アートプロジェクトにおいて取り扱われてきた「負」の歴史・記憶について、事例を取りあげながら、その意味を考察した。
リンケージを示すイメージリテラシー・ツール	2015. 12. 5	日本映像学会中部支部第2回研究会 中部大学	林桃子、張冠文、ポール・ヴィジャヴィセンシオ イメージとイメージのつながりを示すことによってリテラシーの向上に資するツールに関する一連の研究を発表した。
その他の執筆			
物語を始める過去——「クリエイティブ・アーカイヴ」のプロローグ	2016. 3. 1	記録's「みなとアーカイヴ 2015——“mosaic”」ドキュメント	三人のアーティストからなるユニット、記録'sによるみなとまちをフィールドにした試みについて、アーカイヴの視点から論評した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

3. 学会等および社会における主な活動